

平成 27 年度以降の世界緑茶協会主要事業実績に係る報告事項

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

公益財団法人世界緑茶協会は、「茶の都しずおか」の情報発信として「茶の都しずおか創造セミナー」の開催をはじめ、しずおか 0-CHA プラザにおいて開催した各種講座により静岡が誇る茶の文化を発信した。また、海外への日本茶輸出促進に向けた取組として、日本茶輸出促進協議会事業を実施し、日本茶海外輸出戦略セミナーの開催や国際会議の開催や出席を通じて世界の茶の情報の収集と発信に努めた。

2 平成 27 年度の主な協会自主事業実績

件 名	内 容
茶の都しずおか創造セミナー開催	今注目されている抹茶、粉末緑茶の可能性について様々な角度から考えるセミナーを牧之原市、静岡県立大学と連携して開催
しずおか 0-CHA プラザ開催講座	年間を通じ季節に合わせた様々なテーマでお茶の魅力を発信する講座を開催し、4 年連続 4 回目の参加者 1,000 人以上を達成
世界緑茶コンテスト 2015 の開催	中国、台湾、韓国、日本から 58 点の出品があり、最高金賞 7 点、金賞 11 点、パッケージ大賞 1 点、フロンティア賞 1 点を選定
平成 27 年度 0-CHA パイオニア顕彰	水出し茶用フィルターインボトルの開発者である HARIO(株)の坂本氏、静岡県立大学の中村特任教授ら計 5 名を受賞者に決定
通訳案内士お茶研修会の開催	英語の通訳案内士、地域限定通訳案内士を対象としたお茶の研修会を県観光政策課と協力して 3 つのテーマに分けて開催

3 平成 27 年度の日本茶輸出促進協議会事業の実績

件 名	内 容
シンガポールにおける見本市出展	A S E A N 市場最大級の日本食総合見本市に出展し、日本茶の販路の開拓や日本茶の魅力や価値について幅広く情報を発信
日本茶海外輸出セミナーの開催	日本茶の海外輸出を促進するため、残留農薬基準への対応やマーケティング等に関するセミナーを東京、京都、鹿児島、静岡で開催
米国における日本茶指導者の育成可能性調査	第 6 回北米茶会議において同時開催された STI(スペシャルティー茶講座)を視察するとともに、主催者の全米茶協会会長らへその運営方法について聞き取り調査した。
国際化標準機構 (ISO) 茶に関する専門委員会の開催	国家間の円滑な製品の流通のため、国際的な規格を定める活動を行っている「国際標準化機構 (ISO)」の茶に関する専門委員会を静岡で初開催し、抹茶の定義について将来の検討項目とすることを決定

4 平成 28 年度の主な事業実績

件 名	内 容
茶の都しずおか創造セミナー開催	海外から見た和食・緑茶の魅力発信をテーマに外国人が語るセミナーを静岡産業大学 0-CHA 学研究センターと共同で開催
国際連合食料農業機構の会議出席	ケニア・ナイバシャで 5 月に開催された茶に関する国際会議へ日本茶業界の代表の一員として出席し、日本の意見調整を図った。

茶の都しずおか創造セミナー in 牧之原
「抹茶、粉末緑茶は救世主となるか？」

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要 旨

公益財団法人世界緑茶協会は、今注目されている抹茶、粉末緑茶の可能性について様々な角度から考えるセミナーを牧之原市、静岡県立大学茶学総合研究センターと連携して開催し、県内外から多くの茶業関係者の出席を得た。

2 概 要

(1) 日 時 平成 28 年 3 月 7 日 (月) 午後 1 時～5 時

(2) 場 所 相良総合センター いーら (静岡県牧之原市須々木 140 番地)

(3) タイトルと講演者

- ・「抹茶の現状と未来」(株) 桑原善助商店 代表取締役社長 桑原秀樹 氏
- ・「静岡抹茶のブランド化に向けて」静岡県立大学茶学総合研究センター長 中村順行 氏
- ・「米国における粉末緑茶のマーケティング調査結果と ISO (国際標準化機構) 静岡会議開催結果報告」公益財団法人世界緑茶協会 企画部長 西川 博
- ・「新しい時代に適応した効率的な碾茶製造機械」
カワサキ機工株式会社 取締役営業部長 久保孝則 氏
株式会社寺田製作所 技術部 部長 三森 孝 氏

(4) 参加者数 230 名

3 セミナーの様子



講演の様子 1



講演の様子 2



製品サンプルの展示・紹介

4 参加者の意見

- J A と企業が一体となった抹茶工場の建設に向けて協議してほしい。
- 次の一步を踏み出そうと感じたセミナーでした。
- I S O 関係の様子と海外、米国のマーケティングが詳細にわかってよかった。

平成 27 年度しずおか O-CHA プラザミニ講座

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

しずおか O-CHA プラザでは、年間を通じ季節に合わせたさまざまなテーマでお茶に関するミニ講座を開催している。

お茶の多様性や新しい楽しみ方などお茶の魅力を提案する講座として、県内外の一般の方を対象に開催しており、27 年度も 4 年連続で年間受講生が 1,000 人に達し（茶文化講座含む）、3 月に記念イベントを行った。

この講座では、淹れ方体験をするだけでなく同時に受講生が茶に関するワンポイント知識を身につけ、それを普段の生活に生かしていただくことで、茶の消費に繋がるような提案をしている。

2 講座テーマと受講生数

	テーマ	開催時期	参加者数
1	新茶を楽しむ	5 月中旬～6 月中旬	154
2	暑い季節に！冷茶の愉しみ	7 月上旬～7 月中旬	135
3	夏休み親子で楽しむお茶講座	8 月上旬～8 月中旬	110
4	お茶の多様性を知ろうⅠ（品種と白葉茶）	9 月中旬～10 月上旬	132
5	お茶の多様性を知ろうⅡ（新しい香りのお茶）	11 月上旬～1 月上旬	121
6	入賞茶を知る	1 月中旬～1 月下旬	151
7	お茶とお菓子のマリアージュ	2 月中旬～3 月上旬	158
8	茶文化講座	8 月下旬～2 月上旬	91
計			1,052



新茶の講座



冷茶の愉しみ アレンジティー



夏休み親子講座



静岡県が進める新しいお茶のアンケートに答える受講生



入賞茶の講座に参加したアメリカ・カナダのメディア



お茶とお菓子のマリアージュ

世界緑茶コンテスト 2015 開催報告

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

斬新でお茶の未来を感じさせる商品进行评估し、提案していくため、「世界緑茶コンテスト 2015」の審査会を平成 27 年 8 月 19 日、20 日に行った。

国内外から 58 点（日本 41 点、中国 11 点、韓国 5 点、台湾 1 点）の応募があり、茶の商品性や品質の視点審査し、各賞を決定した。

また審査会の一部を一般公開し、多様なお茶や商品スタイルを紹介した。

2 審査会

(1) 審査員

審査員は、(独) 野菜茶業研究所 吉田研究監を審査員長に、茶商工業者、試験研究、マーケティング、デザインの専門家など 8 人。

(2) 審査基準

商品性：コンセプト・名称、パッケージ、コストパフォーマンス

品 質：香気、味

3 入賞結果

賞の名称	点数	日本		海外	中国	韓国	台湾
		日本	静岡県				
最高金賞	7	4	3	3	2	0	1
金 賞	11	7	5	4	3	1	0
パッケージ大賞	1	1	1	0	0	0	0
フロンティア賞	1	1	0	0	0	0	0
計	20	13	9	7	5	1	1

4 審査講評

全体として商品力の向上が見られる。ターゲットやメッセージが明確になり、パッケージのデザインも向上している。消費者・購入者の視点を重視した商品や、機能性を重視した商品、異業種と連携した商品開発も見られ、新たな需要の創造と消費拡大につながる事が期待される。

5 表彰式と展示

- 表彰：平成 27 年 11 月 14 日（土）『第 69 回全国お茶まつり静岡大会』にて実施
- 展示：『第 69 回全国お茶まつり静岡大会』会場及び『FOODEXJAPAN 2016』などで紹介



審査会の様子



表彰式（全国お茶まつり静岡大会）



展示風景

平成 27 年度 O-CHA パイオニア賞

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

茶に係る優れた学術研究や、緑茶の振興に寄与した産業技術、緑茶のある豊かな生活文化の提案等の優れた成果を顕彰する「平成 27 年度 O-CHA パイオニア賞顕彰」の審査会を開催し、受賞者及び団体を決定した。表彰式は 11 月の第 69 回全国お茶まつり静岡大会式典内にて執り行われた。

2 応募件数 9 件

3 受賞者等一覧

受賞部門	受賞者(敬称略)・団体	受賞タイトル
新技術・新商品開発大賞 	HARIO(株) (マーケティング本部 商品開発部 部長 坂本敦子)	水出し茶用フィルター インボトルの開発による 緑茶ファンの拡大
概要: 「お茶の安らぎを提供する」商品として「水出し茶用ボトル」(Good Design 賞受賞)を開発。本年度は 17 万本の売上。(2015/7/10 現在)		
学術研究大賞 	中村 順行 (静岡県立大学 茶学総合研究センター 特任教授・センター長)	茶の品種育成と研究成果の波及および茶業振興への貢献
概要: 時代に先行した香味豊かな品種を多数育成したほか、産官学民の連携の茶研究や人材育成等、茶業界に指導的な役割を果たしている。		
O-CHA 特別賞 	時田 鉦平 (藤栄製茶株式会社 前代表取締役会長)	茶業の変革と今後の指針を見出す多数の著書
概要: 「茶商の読んだ茶経評釈」等多数著書。全茶連情報のコラム執筆。野菜茶業試験場でも長年特別講義を担当するなど茶業界へ貢献。		
CHALLENGE 賞 	和多田 喜 (「表参道 茶茶の間」 店主)	新しい喫茶文化の提案
概要: 2005 年、新スタイル日本茶カフェをオープン。10 年にわたり質の高い新しい喫茶文化を提案。茶を楽しむ場を創り、日本茶ファンの拡大に努力。		
文化・芸術大賞 	桑原 秀樹 (株式会社桑原善助商店 代表取締役社長)	抹茶の研究及び普及啓発活動
概要: 抹茶の歴史・文化・生産の現状等、幅広い角度から独自の研究を重ね、「抹茶の研究」「抹茶のすべて」を出版。抹茶需要への貢献が期待できる。		

「通訳案内士・地域限定通訳案内士お茶研修」開催報告

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

世界緑茶協会は、英語の通訳案内士、地域限定通訳案内士を対象としたお茶の研修会を静岡県文化・観光部観光交流局観光政策課と協力のうえ、3 回のテーマに分けて下記のとおり開催した。

2 日程及び内容

	テーマ	場所	日程	内容
1	美味しい茶の淹れ方 抹茶/茶道の基本	O-CHA プラザ (吉野先生)	8 月 30 日 (日) 13:00-17:00	実演を交え、美味しい茶の淹れ方と 茶道の基本を説明 (4 時間)
2	茶の栽培・製造方法 と工程、品種*	森内茶農園	9 月 13 日 (日) 9:30-11:30	茶園及び荒茶加工施設の見学、園主 の概要説明 (2 時間)
3	茶の種類と仕上げ・ ブレンド*	前田金三郎商店	10 月 31 日 (土) 9:00-11:00	店舗及び仕上茶加工施設の見学、店 主の概要説明 (2 時間)

3 講座の様子



第 1 回研修会の様子
(O-CHA プラザにて)



第 2 回研修会の様子
(森内茶農園にて)



第 3 回研修会の様子
(前田金三郎商店、仕上工場にて)

4 受講者の声

- 講座内容が非常に素晴らしく、内容が濃かった。
- 実践的であきない内容で、先生の知識の多さに驚きました。
- 内容が濃く、工場見学・茶園での説明など、具体的でわかりやすかった。
- とても有意義で用語の使い方、伝え方の勉強になりました。日本茶のすばらしさもこれから伝えていけたらうれしいです。

おいしい
シンガポール **Oishii Japan 2015** 出展報告

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

日本茶輸出促進協議会の輸出環境対策部事業の一環として、シンガポールで開かれた日本食品・飲料のための食品見本市「Oishii JAPAN 2015」に日本茶の主要産地・消費地の茶業者とともに出展し、日本茶のPRと販路の開拓を行った。

2 Oishii JAPAN 2015 の概要

- (1) 会 期 平成 27 年 10 月 27 日(木)、28 日(金)、29 日(土)
- (2) 会 場 サンテック・シンガポール国際会議展示場
- (3) 主 催 Oishii JAPAN 実行委員会
- (4) 内 容

ジャパンブランドに特化した ASEAN 市場最大級日本食品総合見本市で、アセアン市場のダイレクトなマーケティングの場である。今回は過去最高の 294 社（前年比 10%増）が出展、来場者はトレードバイヤー数、一般来場者数ともに前回を上回る 10,910 人が入場し、多くの商談の場が創出された。マレーシアやベトナムなど周辺国からのバイヤーによる熱心な買い付けも認められた。

3 出展の成果

- 出展ブース内において日本茶のおいしい淹れ方、もてなし方などのミニセミナーと冷茶の試飲を実施。
- 農水省ブース内特設ステージにおいて、おいしい淹れ方の実演をはじめ、日本茶の魅力を紹介。
- 日本茶販売事業者 4 社への出展ブース提供による流通業者や販売業者との商談実施。各社活発に名刺交換を行った。
- 一般消費者とバイヤー向けのアンケートの実施により、シンガポールにおける茶のトレンド把握に役立った。

4 出展の様子



ミニセミナーでの様子



プレゼンテーションの様子

日本茶海外輸出戦略セミナー開催報告

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

公益財団法人世界緑茶協会は日本茶輸出促進協議会の輸出環境対策部事業の一環として、国内の茶生産者及び茶商工業者、関係団体、各自治体の指導者等を対象に、日本茶輸出の促進を目的とした、日本茶輸出に伴う問題点や輸出のための生産等を幅広く学ぶセミナーを全国主要都市で開催した。

2 テーマ及び講師

	テーマ	講 師（敬称略）
1	海外での日本茶の現状	日本茶輸出組合 副理事長 谷本宏太郎
2	輸出の手続き	日本貿易振興機構 農林水産食品部 農林水産・食品部アドバイザー 永江宣文
3	日本茶輸出に向けた防除体系の構築	農研機構 野菜茶業研究所 上席研究員 佐藤安志
4	日本茶のマーケティング戦略	株式会社 TM's コンサルティング 代表取締役 田川由美子
5	総合討論 「日本茶輸出の今後」	司会進行: 静岡県立大学 茶学総合研究センター 特任教授 中村順行

場所	開催日	場 所	受講者
東京	平成 27 年 7 月 28 日(火)	ベルサール芝公園	73 名
京都	平成 27 年 9 月 3 日(木)	宇治茶会館	106 名
鹿児島	平成 27 年 12 月 1 日(火)	鹿児島サンロイヤルホテル	168 名
静岡	平成 28 年 1 月 26 日(火)	(株)静岡茶市場	146 名
合計			493 名

3 セミナーの様子



討論会の様子（鹿児島会場にて）



講演中の様子（静岡会場にて）

米国における日本茶指導者の育成可能性調査

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要 旨

日本茶輸出促進協議会の事業の一環として、第 6 回北米茶会議において同時開催された S T I（スペシャルティー茶講座）を視察するとともに、その講座の主催者である全米茶協会のピーター会長らへその運営や開催方法について聞き取りにより調査した。また、カナダ茶協会のティー・ソムリエのコースについてもルイーズ会長から同様に調査した。

今後も各団体と茶産地の様々な情報を提供するとともに連携を強化することについて相互に合意した。

2 調査概要

- (1) 実施時期 平成 27 年 9 月 21 日（月）～22 日（火）
- (2) 場 所 米国テキサス州サンアントニオ市
ザ ウェスティン サン アントニオ リバーウォーク ホテル
- (3) 参 加 者 静岡県立大学茶学総合研究センター長 中村順行
NPO 法人 日本茶インストラクター協会副理事長 小島康平
(公財) 世界緑茶協会企画部長 西川 博
通訳・日本茶インストラクター有資格者 近藤カリシャー宣子
- (4) 調査内容 ・茶講座の構成及び内容 ・人材養成組織の実態 他

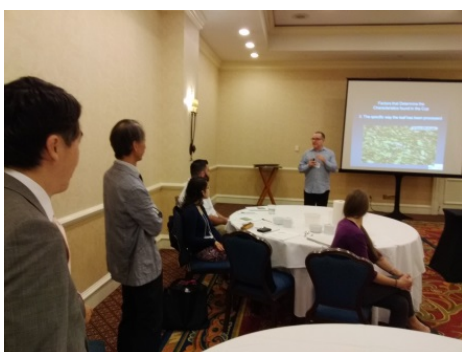
3 調査の様子



北米茶会議会場の外観と大会ロゴ



STI 認定講師と調査対応者



講座の様子「基礎講座」



講座の様子「茶と健康」

国際標準化機構(ISO)茶に関する専門委員会の開催

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要 旨

グランシップで「国際化標準機構 (ISO:アイ・エス・オー)」の茶に関する専門委員会が、平成 27 年 6 月 2～4 日に開催された。

今回の会議では、世界で需要が伸び、品質にばらつきが出ている「抹茶の定義」を議題とするよう日本から提案し、専門委員会では今後の議題とするために、栽培法、製造方法、成分分析法の各国の状況を整理・検討していくことが合意された。

茶に関する ISO の国際会議は日本発開催であり、日本茶輸出促進協議会の一員として世界緑茶協会が開催事務局を務めた。

2 開催概要

- (1) 開催時期 平成 27 年 6 月 2 日 (火) ～4 日 (木)
- (2) 場 所 グランシップ (静岡市駿河区池田)
- (3) 参 加 者 茶に関する専門委員会に所属している 40 か国のうち、8 か国 35 人が参加、随行者及び傍聴者 19 人
- (4) 議 題 生産行程管理や成分分析法など 13 項目

<主な議題>

- ・茶の成分の定量分析法
 - ・官能検査のための抽出液の前処理方法
 - ・インスタント茶の水分含有量の測定方法
 - ・茶の分類方法
 - ・緑茶の審査用語の検討
 - ・生産工程管理 (GMP)
 - ・残留農薬に関する情報提供
 - ・**日本側からの提案**「抹茶の定義を今後の議題として設定するよう提案」
- 栽培法、製造方法、成分分析法を各国が整理して、専門委員会で検討していくことになった。



茶の都しずおか創造セミナー in 世界お茶まつり 2016

「海外から見た和食・緑茶の魅力発信」

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要 旨

公益財団法人世界緑茶協会は静岡産業大学 O-CHA 学研究センターと連携して、日本在住の外国人専門家を招へいし、和食と茶の海外発信についてそれぞれの視点で語っていただき、「茶の都しずおか」から茶の文化的価値を発信した。

2 概 要

(1) 日 時 平成 28 年 5 月 14 日 (土) 午後 1 時～4 時

(2) 場 所 龍門山 石雲院 (静岡県牧之原市坂口 1251)

(3) 講演者等

- ・マルチノ・ロベル・ジル 氏 (食と旅のフリージャーナリスト)
- ・ブレケル・オスカル 氏 (日本茶の伝道師)
- ・ケント・ローズ 氏 (静岡県立大学非常勤講師)
- ・コーディネーター 静岡産業大学情報学部長 堀川教授

(4) 参加者数 95 名

3 セミナーの様子



4 参加者の意見

- ビジネス面でプラスになった。
- 日本一丸となって世界に向けて発信していかなければならないと感じた。
- 茶の将来性を感じ取れた。
- 色々な観点から日本茶の振興についての提言を受けて参考になった。
- 静岡県には、日本や世界に誇れる“食”がたくさんあるということに気づいた。海外へ日本茶を広めていくには努力が必要であるが、可能性は大いにあるということ。
- 輸出の現実面を知ることができた。

平成 28 年 6 月 3 日

茶の国際連合食糧農業機関政府間グループ(FAO/IGG on Tea)会議

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要旨

前回(2014 年)インドネシアのバンドンで開催された本会議以降の情勢の変化などを反映し、2015 年にイタリアミラノで開催された中間会議の結果踏まえて、各作業部会の対応方針を消費国、生産国間の政府間レベルで検討した。

2 概要

- (1) 日 時 平成 28 年 5 月 25 日(木)～27 日(金)
- (2) 場 所 ケニア ナイバシャ エナシパイ リゾート&スパ
- (3) 出席国 アルゼンチン、バングラデシュ、中国、EU (ドイツ、イタリア、イギリス)、カナダ、インド、インドネシア、日本、ケニア、マラウイ、スリランカ、トルコ、FAO スタッフ他、約 60 名。日本からは農林水産省生産局地域作物課井上課長補佐、農研機構本部白井研究管理役、果樹茶業研究部門の角川茶業連携調査役、吉田研究員、世界緑茶協会の西川企画部長が出席した。
- (4) 内 容 茶の残留農薬基準、流通と品質、有機栽培、気候変動、小規模茶農家対策、統計解析についてそれぞれの部会で議論されるとともに、各国の茶に関わる情報を交換するウェブサイトの開設、一次産品共通基金(CFC) が助成したプロジェクトの報告が行われた。
- (5) 検討結果の要旨
 - ア 残留農薬基準部会
 - ・ 抽出した茶の残留農薬基準設定の進捗状況の確認
 - ・ EU と Codex の残留農薬基準の隔たりについて指摘
 - ・ 農薬メーカーとの共同作業の必要性を確認
 - ・ Codex への登録申請を随時行うことができる国際組織の必要性を提案
 - ・ 薬剤耐性病害虫発生情報共有の重要性を確認
 - イ 流通と品質
 - ・ 各生産国における ISO 基準の国内標準への導入状況及び遵守状況を確認

3 検討の様子

